

市長と語る会(阿波地域住民自治協議会)

平成27年7月11日(土)午後7時30分～午後9時
阿波地区市民センター

項目	市民の皆さんからいただいた主な意見等	その際の回答要旨
地域創生、地域振興について	<p>市長は、「あかんやろ」をキャッチフレーズに、2年10か月が過ぎた。市長はこれから、伊賀市をどのようにしていきたいのか聞かせていただきたい。</p> <p>地方分権や分権型まちづくり、土地利用の多核連携で地域に重きを置いた施策をされるのかと期待していましたが、土地利用にしても公共交通形態にしても、補助金にしても、地域にいと見えてこないと感じている。</p> <p>地域の振興予算も減ってくる。その中で、地域の創生、振興をどうやっていくのか聞かせていただきたい。</p>	<p>農林業の再生、観光立市は何のためにするかと言うと、将来に備えて、しっかりとした産業基盤を作って経済的な心配がないようにする。つまり、職場を増やし、若い人たちが定着するようにする。そして、少子高齢化の中で、安心な地域をつくるために言っていることです。</p> <p>地域にしっかりとしてもらうことが、これからのまちづくりの基本です。その意味で、自治協の存在意義があると思っています。</p> <p>行政は住民のための組織です。自分たちの意図するような形で、その組織を使っていくというのが、これからの自治協であり、将来は自治センターということになります。行政としては、コラボ関係を結んでサポートしていきます。</p>
配食サービスについて	<p>「あわてんぼう」は、レストラン部門とお弁当部門があり、確実に伸びている。</p> <p>現在、市の入札で、大規模事業者が、伊賀一円に、お弁当を配るということで配食をしている。</p> <p>「あわてんぼう」は、声かけをモットーにした、地域限定の指定業者にさせていただきたいと思っている。</p> <p>旧大山田村を対象に、準指定業者というか、そういうものが構築されるのであれば、入札に参加したい。地域に配慮した条例に変えてほしい。</p>	<p>担当は健康福祉部です。数で勝負ではなく、グレードで勝負しないといけません。地域が元気になってもらわないといけないので、条例を変えられるものか検討します。</p>
地域医療について	<p>市民病院の経営が厳しい。不安である。ヘリポートができて少しは安心できたが、まだまだである。</p> <p>診療所は、いずれは無くす方針だと思う。費用対効果もあると思うが、診療所は医院ではなく、診療所の意味があると思う。</p> <p>身近なところにあり、何かあったときにちょっと診てもらえる。ヘルパーさんと連携がある。診療所を起点に保健、予防、食事等で、寿命を長くできるのではないか。</p>	<p>病気になって多大な医療費がかからないように、健康に注意して医者にかかることのないチェック体制を考えると、折々体調を診てもらうほうがいいと思います。</p> <p>皆さんが健康寿命を保つことが大事。そのための方策が必要だと思います。</p> <p>市民病院は、昨年、総務省のアドバイザーに来てもらい診断を受けた結果、2年以内に抜本的な改革が必要と言われました。私がいる間に何とか形にしたいと思っています。</p>

<p>さるびの温泉について</p>	<p>平成27年度は1年限りの指定管理でスタートし、いろんな行事で集客を図っている。指定管理料の中で十分やっていける手ごたえを感じている。28年度以降は法人化という話もある。そこで、公募の発注条件を出来るだけ早く良い条件を出していただきたい。その時には、設備の維持管理費用はどうするか。28年度以降いきなり財政支援ゼロという条件では、法人化しても手を挙げられない。スケジュール的にいつその条件を出されるか教えていただきたい。</p>	<p>一番いいのは、地元の方たちが責任ある組織を作って、将来にわたって、こういう経営の見通しができますというような説明をしていただくことが大事だと思います。</p> <p>どういう形で任せるのか、そういう組織に売却するのか、指定管理料0円であるのが良いのか、方法はいろいろ考えていかないといけません。</p> <p>市として、いろんな形を探る中で、早く地域の方に提示しないとイケないと思っています。</p>
<p>空き家対策について</p>	<p>空き家の改修費、子育て、仕事のあっせん等、考えていただきたい。インターネットを見ると、空き家バンクについていろんな地区でいろんなことが書かれている。伊賀市はどのように考えているか。</p> <p>管理されていない家は草が生い茂っている。空き家管理に対しての補助金を、少しでもいただければと考えています。</p>	<p>空き家バンクについては、まちづくり伊賀上野株式会社が今まで上野のまちなかだけで取り組んでいましたが、郡部にも広げていくとのことですので、支援をしていきたいと思っています。</p> <p>5月26日に、空き家対策特別措置法が施行されたことに伴い、今年度、伊賀市全域の空き家を調査して、データベースをつくりまします。今後、空き家をどうしていくか、今年度中に空家対策計画を策定して、総合的に取り組んでいく予定です。</p>
<p>農地の管理について</p>	<p>補助金だけではできない問題。担い手農家、集落営農、協同組合など、有機的な組み合わせが必要です。農地中間管理機構がなかなか進まない。これを進めてほしい。</p>	<p>大山田農林業公社の受託は先進的だと思っています。</p> <p>伊賀市では人・農地プランを進めています。中間管理機構も人・農地プランがないところは受けません。人・農地プランを作っていただいて、その中で考えていただきたいと思っています。</p>
<p>地域振興予算と補助金について</p>	<p>地域振興予算は、イベントや祭りの補助金を見直し、予算を均等割3、人口割7で再配分しただけ。人口の少ない地域では、何もできない。</p> <p>やる気のある自治協に対し、公募型の補助金を積極的にしてほしい。地域活動支援事業のハードルを低くしていただき、書類審査のみにして、年1回と言わず、募集回数を多くしてほしい。</p>	<p>良い提案だと思います。皆さんのやる気をしっかり形にしていくことが地域の生き方を作っていくことだと思います。</p> <p>住民自治・地方自治に関して、市民の皆さんが研修できる機会を作っていきたいと思っています。しっかり勉強していただくことが、住民自治の基本になると思いますので、予算措置をしていきたいと考えています。</p>
<p>小水力発電について</p>	<p>昨年度末にこのプロジェクトが大山田地区振興計画に採用された。</p> <p>固定価格買い取り制度を利用して、得られる収益を市民へ還元することを目的としており、市民が主体となった小水力発電事業は全国にも実現事例がない。事業性があるという場合には、伊賀市にも支援と協力をお願いしたい。</p>	<p>伊賀市ができること、サポートできることは、大山田支所へ言ってください。他でやっていないことを伊賀市でやることは、大事なことだと思っています。</p>